【manaba 提出用】

2015 年度　中央大学特定課題研究費　－研究報告書－

所属	文学部	身分	教授
氏名	坂田　　聡		
NAME	Satoshi　Sakata		

１．研究課題

（和文）14 世紀における社会変動の歴史的意義に関する研究

（英文）The Study of the Historical Significance of Social Changes in the Fourteenth Century.

２．研究期間

２年間

３．研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果　和文 600 字程度、英文 50word 程度）

（和文）かつて網野善彦は、14 世紀の南北朝内乱期に日本の歴史が決定的に転換したとみなし、この転換期を民族史的転換期と呼称した。網野によると、民族史的転換とは民衆の生活文化や習俗、法慣習の次元での「未開」から「文明」への転換であり、それによって天皇の地位が決定的に低下するとともに、さまざまな差別が進展したとのことである。

これに対し私は、民衆レベルでの家制度の成立を重視して日本の歴史の転換期をとらえようと試み、それを 16 世紀の戦国時代に求める見解を示した。網野の見解も私の見解も、民衆史の視点から日本の歴史を大きく二分する、二分法的な時代区分論にもとづくものであるが、その転換期には 200 年ほどのズレがあり、両者を安易に同一視することはできない。

そこで、本研究では 16 世紀における歴史的転換の諸条件が芽生えた時期として 14 世紀を位置づけ、網野とは異なり、農民の家の形成過程という視点から、14 世紀の社会変動の歴史的意義を考察した。

具体的な研究計画としては、①14 世紀における民衆の家の形成過程に関わる史料の収集、②これらの史料の読解とデータベース化、③14 世紀の社会変動をめぐる先行研究の読解、④考察と論点の整理、⑤本テーマに関する研究発表、⑥本テーマに関する論文の執筆といった手順で作業を進めた。そして、その研究成果として「家論から見た十四世紀」（中島圭一編『十四世紀の歴史学』高志書院、2016 年所収）なる論稿を活字化した。

（英文）

This study focuses on a particular aspect of social changes which arose in the fourteenth century in terms of the theory of *Ie* — the Japanese concept which meets definition of the family. Concretely it locates this century as the special era when the conditions of the most fundamental turn of the Japanese history were met, and compiles an article entitled ‘the fourteenth century from a perspective of the theory of *Ie*’.